

沖縄・銘苅直禄原遺跡

物が出土した。遺構は掘り込み遺構や集石遺構などが検出されていて、その性格については判然としない。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 所在地 | 沖縄県那覇市銘苅小字直禄原 |
| 調査期間 | 一九九八年（平10）一〇月～一九九九年三月 |
| 発掘機関 | 那覇市教育委員会 |
| 調査担当者 | 當間麻子 |
| 遺跡の種類 | 遺物包藏地 |
| 遺跡の年代 | 一四世紀～一五世紀 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |

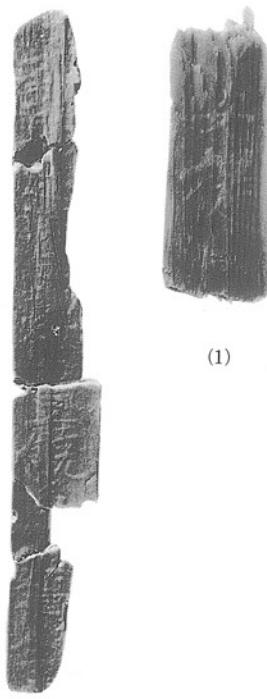
8 木簡の釈文・内容

今回出土した木簡二点は、これらの遺構からやや離れた地点の遺物包含層より出土したもので、遺構との関連は明確ではない。木製品は約六〇点の出土があり、儀式用とみられる墨壺や、漆椀・下駄などがあるものの、大部分は用途不明である。それ以外の遺物としては鎬蓮弁文椀などの中国産磁器・東南アジア産褐釉陶器・在地産土器ならびに獸骨（牛）などが出土した。

本調査は、那覇新都心整備事業地内における天久公園整備事業に伴うものである。遺跡は標高約一二mの湿地帯に位置し、北西側は

(那 翱)

標高約二二mの台地に接している。東側および南側には河川が流れ、周辺には銘苅原遺跡や安謝前東原遺跡など同時期の遺跡が点在する。層序は大別すると四層あり、このうち、カワニナや、砂・粘土などの粗粒子を含むⅡ層より、多くの遺



(2)

(2) (1)

提

1

五

穀

豐
特

既
負

々

□如
□往

令

八

137

×

8)

65

81

(1)の木簡は上下が破損しており、一文字しか判読出来ない。「提」の上部にも何らかの文字の一部が認められるものの、不明瞭である。

(2)は上端が圭頭に整形されている。下端は摩耗しており、判然としない。「五穀豊饒」の上下にも文字が認められ、下部の文字は、「急々如律令」の五文字があると推測される。これは、沖縄において「フーフダ」と呼ばれる呪符木簡の一種であると考えられる。山里純一『沖縄の魔除けとまじない』(第一書房 一九九七年) 参照。

なお、(1)(2)いずれも墨が完全に失われており、文字が凸状に浮き上がった状態である。

(當間麻子)

『木簡研究』在庫状況のお知らせ

| 頃価 | 一・四号 | 品切れ | 五・六号 | 三五〇〇円 |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 七・一二号 | 三八〇〇円 | 一三号 | 四三〇〇円 | |
| 一四・一五号 | 四五〇〇円 | 一六・二二号 | 五五〇〇円 | |
| 四冊 | 一二〇〇円 | 五・一〇冊 | 一五〇〇円 | |
| 一・二〇冊 | 二〇〇〇円 | | | |

※個人購入の場合は代金前納です。代金と送料は郵便振替で○一〇〇〇一六一五二七 木簡学会

までお送り下さい。

※大学・博物館など公的機関の場合は代金後納です。銀行振込か右の郵便振替でお願いします。

□座番号 第一勧業銀行西大寺支店

普通預金 一一一〇三一五

□座名 木簡学会 佐藤宗諱(さとう そうじゅん)

連絡先 〒六三〇一八五七七 奈良市一条町二丁目九番一号

奈良国立文化財研究所

平城宮跡発掘調査部史料調査室気付

木簡学会

電話 ○七四二一三四一三九三一(内一三九)